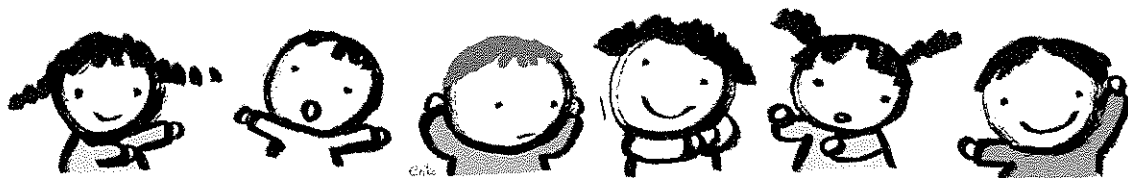


2024年度

こどもニュース

No. 2

4.11.発行



【ご進級・ご入園おめでとうございます！】

お子様のご進級・ご入園おめでとうございます！

新しい年度が始まりました！親子で迎えた始業礼拝、今年度はまだ学校が始まっていないという小学生も参列してくれました。新型コロナウイルスの影響で長らく小学生の参列も見合わせていましたが、昨年度の終業礼拝から再開できました。「久しぶりに礼拝に出られる！」と楽しみに来てくれた卒園生もいたようです。

讃美歌「ひかりひかり」も（ああ、そうだった）というような表情で歌う姿に、卒園しても心のどこかで神様に繋がっている姿を感じ、とても嬉しくなりました。

【スタートを大事に丁寧に】-2日間の年中長保育では-

始業礼拝後5日、8日には進級した年中長児だけで保育を行いました。

私たちはこの2日間をとっても大事に考えています。

新しいクラス、新しい先生、子ども達なりに進級への期待や不安を胸に登園してきます。そのスタートに丁寧に寄り添い、また「久しぶりの幼稚園だったけど、やっぱり楽しかったー！」という2日間にしたいと願い、スタッフも様々な遊びの準備をして臨みました。不思議な事に始業礼拝を含め3日間で子ども達の表情がグリーンと変わっていきます。それは子ども達自身に「大きくなった」という意識があるからでしょう。異年齢混合、縦割りの保育では身近に「こうなりたい」「次は〇〇ちゃんのようになる」という具体的な「モデル」がいます。

進級した年中さん、年長さんは「自分は〇〇ちゃんのようになった」と実感しているのでしょう。その自覚が子ども達を成長させてくれるのですね。



—はじめての年中・年長あつまりでは—

金曜日には早々、進級して最初の「年長あつまり」「年中あつまり」が持たれました。それぞれの集合場所に向かう子ども達の表情のなんと誇らしげだったこと! さっそく「なにがしたいか」を子ども達と相談しました。園では年齢が上がるにつれ、子ども達自身と相談しながら1年間の活動を決めていくのです。

「年長あつまり」では年長としての「役割」についての相談がありました。そうです、この園の年長さんは園生活を「運営」する役目がたくさん!

お片付けの「ベル当番」、片付け終了頃に園内を見回ってくれる「KMT 当番(何の略語か子ども達に聞いてみてくださいね)」、2学期からの体操リーダーetc....

それらの話を聞く子ども達の後ろ姿は背筋がピンと伸びて、まずは集中して聞き、その後、一人ひとりがいろいろな意見を言っていて、本当にもうすっかり「年長さん」の後ろ姿でした。これも前の年長さんの姿に憧れ具体的なイメージを持てる「縦割り保育」ならではの姿と感じました。お話し後は早々、じゃが芋植えに挑戦。去年の年長さんも取り組んでいて憧れの活動です。芽が出るのが楽しみです!

一方、年中あつまりも負けていません。「どんな事をしてみたい?」という保育者の問いかけに次々と意見が出されていました。つい先日まで泣いていたのに「年少さんが来たら教えてあげる!」と張り切る姿に頼もしさを感じました。

【泣いてもいいよ、年少さん!】

入園式はあいにくの雨でしたが、いよいよ毎日の登園が始まった年少さん。初日の水曜日はわけもわからずエントランスで「行ってきまあす」とおうちの方と別れたものの、事態がわかった翌日からは「行きたくない!」と坂道の途中からしぶる姿も。また園内でも「おかあさん」と泣く子もいて、これからしばらく様々な「ドラマ」が繰り広げられることでしょう。

はじめておうちの人と離れ社会生活をはじめたわけですから心細くなったり悲しくなっても当たり前です。どうぞ、その気持ちを否定したり無理に頑張らせず、おうちの方自身も焦らず、温かく見守りつつ送り出してあげましょう。

(早く慣れて元気よく遊んでほしい)と思うのも親としては当然ですが、大人でも新しい環境に慣れるのには時間がかかるものです。「幼稚園が楽しくなる日はきっとくる」と信じて待ちましょう。とはいえ、心配も尽きないものです。どんな小さな事でもスタッフにお聞きください。子ども達の成長を分かち合い喜び合うために、園ではこの「こどもニュース」を発行しています。子ども達の遊びの様子、保育者の想いなど「幼稚園の今!」を載せ、随時発行していきます。どうぞよろしく願いいたします。

児玉芽 

キリスト教のこの言葉ってなあに？

『おいのり』ってなあに？

——神さまとお話することです。



神さまは目には見えないので目を閉じ、手では触れることができないので手を組みます。そして「かみさま」と声を掛けると、神さまはその言葉を聞いてくださいます。嬉しいことも悲しいことも、友達のことも神さまにお話して聞いていただくことがお祈りです。「ありがとう」と感謝のお祈りをすることもあります。

幼稚園では、食事の前と降園前のクラスの集まりの中、そして水曜日の礼拝でお祈りをしていますが、(神さまにお話ししたいな)と思ったら、いつでもどこでもどんな時でもできるのがお祈りです。

『アーメン』ってなあに？

——お祈りの最後に言う言葉です。

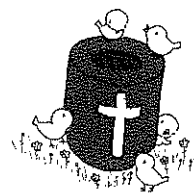


ヘブライ語で「真実に」「確かに」という意味があります。「今お祈りしたことは本当です」「全くその通りです」とみんなで心を合わせて言います。

『けんきん』ってなあに？

——神さまの恵みに感謝して、
私たちの気持ちをあらわして献げるものです。

今日はいいお天気、気持ちがいいよ。神さま、太陽を造ってくださってありがとう。
きれいな花を咲かせてくれてありがとう
友だちといっぱい遊んだよ ありがとう
おいしい食べ物をありがとう
おとうさん おかあさんをありがとう
私を造ってくださって、ありがとう



私たちの周りにあるたくさんの「ありがとう」を一つひとつ数えて、それを献金という形であらわし、広い世界のどこかで苦しんでいる人の為にお役に立てたら……と考えます。金額ではなく、喜んで献げる気持ち、心を込めて神さまの御用の為に使っていただくとする気持ち、そんな心が子どもたちの中に育ってほしいと願っています。